



つなぐれ和泉っ子

～人と社会と未来の自分～

和泉

7月号

<https://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/izu>

五月雨を…

校長 中澤 道則

五月雨を 集めて早し 最上川

あまりにも有名な松尾芭蕉の句です。「梅雨」というと鬱陶しい曇り空やシトシトと降り続く雨が思い浮かびます。しかし、この梅雨空が、日本の「風景」と切っても切れない縁があることも、また確かでしょう。



6月10日、地域の横山武夫さんをお招きして5年生が「田植え」を行いました。今年はプールの工事の影響で例年、田んぼにしているところを使うことができなかつたため、5年生の子ども達が花壇の土をいったん外に出し、ブルーシートを敷いてから再び土を戻す、という「大工事」を行い、「田んぼ」を作りました。そしていよいよこの日の「田植え」。泥だらけになりながらも

楽しそうに田植えをする子ども達。横山さんの分かりやすく、丁寧なご指導で職員室前の「花壇」は立派な「田んぼ」に生まれ変わりました。さらに6月23日には工事が終わったプールの横の田んぼに再び田植えをしました。2回目は子ども達も慣れたもので、手際よく植え付けていきます。土と触れ合うことが減ってきた最近の子ども達にとって、かけがえのない、貴重な「体験」になりました。



稲の苗がきれいに並んで植えられた「早苗田」。風になびく早苗の姿は、まさしく長らく「米」を主食としてきた日本の「原風景」ということができるでしょう。このように「鬱陶しい」と思われがちな梅雨もまた、見方を変えれば私たちの生活を支える「恵みの雨」でもあるわけです。

50周年の今年度。式典や記念誌、記念品、児童の活動と記念事業の準備も進んできています。コロナ禍で人と触れ合う学習も制限されがちではありますが「まち」や「まちの人」と触れ合う学習をより一層、大切にして、「まち」と共に50周年を祝うことができると考えております。

さあ、あと3週間余りで夏休みです。和泉小学校の「田んぼ」に植えられた早苗。この早苗が黄金色の穂を实らせる頃、新型コロナウイルス感染症の状況はどうなっているのでしょうか。「コロナ禍」の中ではありますが、子ども達の「学び」が「黄金色の稲穂」のように実り多いものになるよう、教職員一同、努めてまいります。保護者、地域の皆様、どうぞ今月もよろしくご理解、ご協力のほど、お願いいたします。